

# 平成 28 年度 事業 報告

## 1 経常的な法人運営

### (1) 理事会・評議員会の開催

平成 28 年 4 月 13 日、第 11 回理事会を開催した。

(議題：第 11 回評議員会の招集について)

平成 28 年 6 月 8 日、第 12 回理事会を開催した。

(議題：平成 27 年度事業報告・収支決算及び『学術の動向』編集委員会関係)

平成 28 年 6 月 24 日、第 13 回理事会を開催した。

(議題：「科学と社会研究会」関係)

平成 28 年 6 月 29 日、第 11 回評議員会を開催した。

(議題：平成 27 年度事業報告・収支決算、『学術の動向』編集委員会関係及び「科学と社会研究会」関係)

平成 29 年 1 月 26 日、第 14 回理事会を開催した。

(議題：第 12 回評議員会の招集について)

平成 29 年 3 月 27 日、第 15 回理事会を開催した。

(議題：平成 29 年度事業計画・収支予算、「科学と社会研究会」関係及び常務理事選任)

平成 29 年 3 月 27 日、第 12 回評議員会を開催した。

(議題：平成 29 年度事業計画・収支予算、「科学と社会研究会」関係及び役員選任)

## (2) 学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発

### ① 『学術の動向』の発行

日本学術会議の編集協力を得て、総合学術情報誌『学術の動向』を刊行した。同誌には、国内外の学術の動向を特集するほか、日本学術会議の活動状況を紹介し、広く、大学、研究機関、学協会、一般国民に周知した。

### ② 『学術会議叢書』の発行

学術及びその成果を広く一般に普及するため、日本学術会議が主催した公開講演会の記録を基に関連資料及び解説を加えて編集した学術会議叢書を刊行しており、平成28年度は、次の1冊を刊行した。

- ・ 学術会議叢書23 『子どもの健康を育むために』

同叢書23は、(公財)一ツ橋総合財団からの助成を受けて、全国約1,500ヶ所の国公立図書館・大学等に寄贈するとともに、賛助会員たる学術団体等に無償配布した。

## (3) 学術連携推進事業

### ① 科学者連携事業

日本学術会議の主催の講演会、シンポジウム等の事業について、学術普及・啓発事業の一環として協力した。

### ② 学協会に関する実態調査及び調査結果の情報発信

－「データベース『学会名鑑』Web版」

我が国学協会に関する包括的なデータベースである「学会名鑑Web版」について、一層の利・活用を図るため、(国研)科学技術振興機構(JST)及び日本学術会議と連携・協力し、収録学協会の拡大及び収録データ事項の充実を行った。

### ③ 国際学術交流事業の実施

同事業の今後の在り方について、当財団の事業運営及び財政の改革に関連して、検討を続けた。

### ④ 学術調査研究事業の実施

同事業の今後の在り方について、当財団の事業運営及び財政の改革に関連して、検討を続けた。

#### (4) 学術関係団体事務支援事業の実施

日本学術会議同友会、日本医歯薬アカデミー、日本農学アカデミー、硬組織再生生物学会等学協会からの要請を受けて、各団体活動に係る事務の支援を行った。

## 2 事業運営及び法人財政の改革

### (1) 「学術情報の収集調査及び情報発信・普及啓発」（公益目的事業1）の改革 －「科学と社会」に関する発信の一層の強化

『学術の動向』を「科学と社会」に関する幅広い観点から編集するため、同誌編集委員会を拡充（編集委員を増員）し、新しい『学術の動向』刊行に向けた編集体制を確立した。

並行して、「科学と社会」に関して、分野、所属、世代を超えた多様な科学者による新たな議論の場として「科学と社会研究会」を設置した。同研究会により新しい『学術の動向』を通じた社会各層への発信を一層強化することとした。

### (2) 法人財政の改革

上記（1）の事業展開を支える法人財政の改革として、以下の取り組みを推進した。

#### ① 賛助会員拡充策の推進

新しい『学術の動向』を訴求材料として、同誌刊行をはじめとする当財団事業の今後の展開を支援するよう、日学会員・連携会員、学協会等関係方面に対し賛助会員加入を求めた。

#### ② 『学術の動向』有料購読者拡充策の推進

上記①の取り組みに並行して、新しい『学術の動向』の読者層拡大に向け、日学会員・連携会員、学協会、大学、研究機関及び一般国民への広報を行った。

#### ③ 財政基盤の強化－寄付金募集活動

「科学と社会」に関する議論と発信を一層強化するための財政基盤として、これら事業の趣旨に賛同する企業等に対し、寄付金募集活動を展開した。